



梁家輝 (レオン・カーフアイ)

王 寧 (ワン・ニン)

呂麗萍 (リュ・リーピン)

周智生 (ロルフ・チョウ)

余力為 (ユー・リクワイ)

監督作品



私の孤独を愛さないで。

天上の恋歌

LOVE WILL TEAR US APART

原題=「天上人間」 1999年・香港・35ミリ・カラー・109分 提供=日本コロムビア・ビターズ・エンド 配給=ビターズ・エンド <http://www.bitters.co.jp/tenjo/> 後援=香港観光協会



何かを手に入れるために、誰もが足早に通り過ぎる街、香港。

アダルトビデオ店を営んでいる冴えないヒモ男、ジェン(梁家輝/レオン・カーファイ)。
年上の女ヤンに養われてどうにか暮らしているのに、女にだらない。
コンビニで出逢った娼婦、エンに一目惚れしてしまう。

香港へ中国本土からやって来たばかり、あどけなきの残る女、エン(王寧/ワン・ニン)。
過去の辛い思い出にとらわれながら、ようやく見つけた仕事は娼婦。
恋人は彼女と暮らす金を手に入れるために強盗をし、銃殺された。

ジェンとの情性の愛を断ち切れない中年女、ヤン(呂麗萍/リュ・リーピン)。
ダンサーだったが事故で足先を失ってから、レストランの受付嬢をしている。
どうして事故にあったのか、その理由はいつも嘘ばかり。

独りの寂しささえ知らない、気弱なエレベーター整備士のリー(周智生/ロルフ・チョウ)。
ジェンの店でボッタクられそうになったことを根に持っている。
上手いかない、退屈な毎日をどうやってやり過ごすかが、
彼の日常における最大の問題。

エレベーターの故障、50年代の人気女優の絵はがき、
ラジオのお見合い番組、テレサ・テンの唄、深夜のテレビ映画、
2000回を超す長寿TVドラマ、エッグタルトの話題。
香港は誰かと誰かをつなぐもので溢れかえっている。
ただ生きていくことに精一杯で、そんなことに気付く余裕すらないだけ。
何かを捨ててやって来た香港で、彼らはまだ何も手に入れてはいない。
愛してくれる誰かを心から求めているのに、本当の気持ちを伝える勇気さえ持たない。
そんな不器用な4人の男女の出逢いとすれ違いが奏でる四重奏は、
本当の別れがやって来るまで美しく響き続ける。

そんな街で「誰かに愛されたい」と心から願っているのに、

原題「天上人間」は“すばらしい世界”の意味。香港は本当にすばらしい街なのか? という、香港人としての監督の問いかけが込められている。英題「LOVE WILL TEAR US APART(愛が僕達を引き裂く)」は、余力為監督も大ファンのNEW ORDERの前身となる伝説のバンド、JOY DIVISIONの同名楽曲にインスパイアされて、脚本が書かれたために付けられた。

〈1999年〉カンヌ国際映画祭 コンペティション部門正式出品 ● 香港国際映画祭 国際批評家連盟賞 ● スtockホルム国際映画祭 撮影賞 ● ミュンヘン国際映画祭 正式出品 ● ヴァンクーバー国際映画祭 コンペティション部門正式出品 ● ベルギー王立フィルムアーカイブ グランプリ受賞 ● ブサン国際映画祭 審査員特別賞 〈2000年〉ロッテルダム国際映画祭 正式出品 ● TOKYO FILMEX 2000 コンペティション部門正式出品

【キャスト】.....

梁家輝(レオン・カーファイ) 王寧(ワン・ニン)
呂麗萍(リュ・リーピン) 周智生(ロルフ・チョウ)

【スタッフ】.....

プロデューサー=關錦鵬(スタンリー・クワン)/梁家輝(レオン・カーファイ)
監督・脚本=余力為(ユー・リクワイ) 撮影=黎耀輝(ライ・イウファイ)
美術=潘焯森(エルブット・ブーン) 照明=黃志明(ウォン・チーミン)
編集=周強(チョウ・キョン) 録音=施家英(ゲイリー・シェ)
製作=胡同制作/Tony Leung Production Limited

原題=「天上人間」 Love will tear us apart.
1999年/香港/35ミリ/カラー/1:1.85/109分
提供=日本コロムビア+ピタース・エンド 後援=香港観光協会
配給=ピタース・エンド <http://www.bitters.co.jp/tenjo/>

ウォン・カーウアイ、フルーツ・チャンに続き、香港インディーズから登場した新鋭、余力為(ユー・リクワイ)が誕生させた、全く新しい香港映画。

何かを求めてやって来た香港ですれ違う男女4人。したたかなまでのたくましさを持った彼らの日常と不器用な愛を丁寧に切り取った、余力為監督「天上の恋歌」は、長編デビュー作にしてカンヌ国際映画祭コンペティション部門に大抜擢された話題作である。

余力為の、状況や心情を説明するような台詞を極力省き感情移入させることを拒みつつも、心に秘めた想いまでも鮮やかに描き出す確かな演出力。そして、ウォン・カーウアイ監督「花様年華」、ジャ・ジャンクー監督「プラトホーム」ほかにカメラマンとして参加するなど、ベルギー留学で身につけた映像感覚は世界から注目を集めている。

経済不況からハリウッドへの人材流出が著しい香港映画界を横目に、ヌーヴェルバーグはじめヨーロッパ世界からの影響を受けた作風を活かし、変わり行く故郷、香港への愛憎を繊細に描き出す。

スタンリー・クワン監督とレオン・カーファイのバックアップ。そして「映画」への愛。

香港インディーズ映画の一本でしかなかった「天上の恋歌」を完成に導いたのは、スタンリー・クワン監督のプロデューサーとしての堅実な仕事と、「ルージュ」「ロアン・リンユイ/阮玲玉」などの監督としての信頼が大きく影響したと言える。また、冴えない男ジェン役での出演をノーギャラで引き受けたレオン・カーファイは、途中で製作資金が尽きると知り、追加出資までも引き受けプロデューサーとしても名を運ねることとなった。情けない男をどこから可愛らしさが漂う存在として演じ切る演技力と、映画に対する愛を感じさせる、まさに世界を代表する映画スターの一人である。

他の出演者としては、ジェンと暮らす中年女ヤンを演じた、「青い嵐」などの中国映画で知られるリュ・リーピン。優しさと同時に心の闇を表現する演技はさすがである。そして、本作でスクリーンデビューを果たすのは、娼婦エンを演じるワン・ニン。TVドラマなどで活躍し、中国では注目を集めてはいたが、劇映画デビュー作でいきなりカンヌ国際映画祭に招待された期待の新星。長い手足とコケティッシュな表情が可愛く印象的。もう一人の新人は、エレベーター整備士役のロルフ・チョウ。香港のバーで余力為監督と意気投合、役者としてだけでなく、インディペンデント映画には欠かせない雑用係として製作にも参加している。

本当の自分をさらけ出す勇気すら持たない、男女4人が出逢い奏でる、不器用で美しい四重奏。

6月23日(土)~7月6日(金) ロードショー

(11:45/2:00/4:15/6:30)

前売鑑賞券 ¥1400 にて好評発売中!!
(当日一般 ¥1700 処)

ホワイト梅田泉の広場M-10右とがる東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
☎06・6361・0088 www.oms.gr.jp

